

ミ マタ チョウ ナイ イ セキ
三 股 町 内 遺 蹤 II

2002年

宮崎県三股町教育委員会

三股町内遺跡Ⅱ



宮ノ原地区遠景（南から撮影）

2002年

宮崎県三股町教育委員会

序

三股町教育委員会では、近年の開発事業等の増加により、埋蔵文化財の保護と諸開発との調整が大きな課題となっており、平成6年度から平成7年度にかけて実施された町内遺跡詳細分布調査の結果をもとに、開発行為が埋蔵文化財に影響を与えることが危惧される場合について事前の試掘・確認調査を実施しているところあります。本書は平成13年度に実施された試掘・確認調査の報告書であります。この調査が、開発と埋蔵文化財の保存とが共存しうるきっかけとなり、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財への理解を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力頂いた関係諸機関並びに地権者の方々に深く感謝申し上げます。

平成14年3月

三股町教育委員会

教育長 中 西 泰 昌

例　言

1. 本書は、三股町教育委員会が国・県の補助を受けて、平成13年度に実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。

2. 遺跡の名称は小字名による。

3. 調査体制は以下の通りである。

調査主体 三股町教育委員会	教育長 中西泰昌
	生涯学習課長 木佐貫辰生
	同課長補佐 財部一美
	同係長 内村陽一郎
	主　　査 捕見千穂子（庶務担当）
	主任主事 黒木欣綱（調査・執筆・編集担当）

4. 本書に使用した写真は、黒木が担当し、空中写真撮影は業者に委託した。

5. 報告書中の方位は磁北である。

6. 出土遺物・その他諸記録は三股町教育委員会で保管している。



本文目次

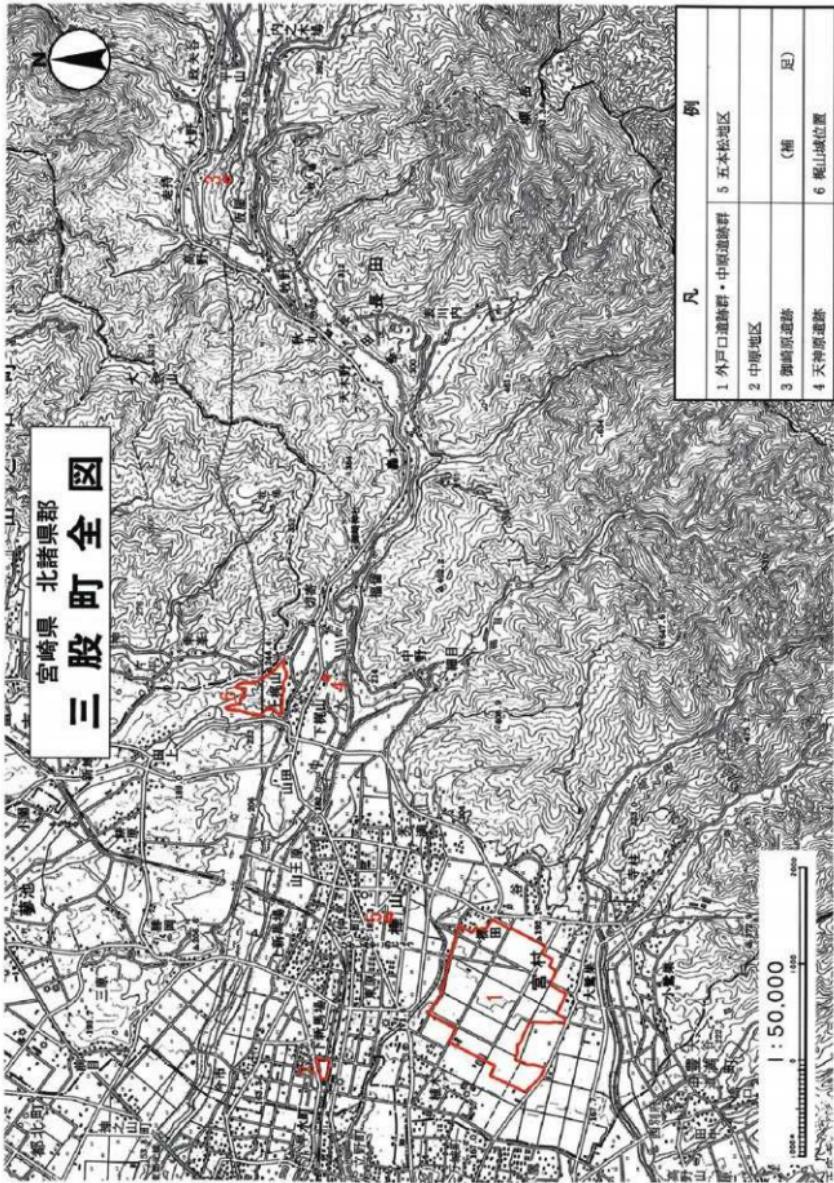
1. 外戸口遺跡群・中原遺跡群	2
2. 中原地区の試掘調査	6
3. 御崎原第2遺跡の確認調査	8
4. 天神原遺跡の確認調査	9
5. 五本松地区の試掘調査	11

挿図目次

第1図 報告書掲載調査対象地位置図	1
第2図 基本土層柱状図	2
第3図 周辺遺跡位置図（外戸口・中原遺跡群）	2
第4図 周辺遺跡位置図（中原地区）	6
第5図 周辺遺跡位置図（御崎原第2遺跡）	8
第6図 周辺遺跡位置図（天神原遺跡）	9
第7図 周辺遺跡位置図（五本松地区）	11

図版目次

図版1 宮ノ原地区調査状況－1	3
図版2 宮ノ原地区調査状況－2	4
図版3 宮ノ原地区調査状況－3	5
図版4 中原地区調査状況	7
図版5 天神原遺跡調査状況	10
図版6 五本松地区調査状況－1	12
図版7 五本松地区調査状況－2	13



1. 外戸口遺跡群・中原遺跡群

[遺跡の位置と環境]

当地は三股町の西部に位置し、北部は萩原川、南部は年見川に囲まれた平地で、現況は広域な畑地帯となっている。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』(平成8年度発行)によれば外戸口遺跡群は弥生・古墳、平安時代の包蔵地となっており、南部に隣接する中原遺跡群は縄文、古墳、平安時代の包蔵地となっている。

[調査に至る経緯]

今回の調査は、平成12年度から継続して実施しているものであり、宮ノ原地区における県営畠地帯総合整備事業に起因している。計画区域が127haという広範囲に及ぶ事業であり、計画的な調査が必要であり、三股町役場耕地課の協力のもと土地所有者との調整を行いつつ、試掘・確認調査を実施している。調査の結果をもとに、事業者側との協議材料として今後も調査の継続が必要となるだろう。

[調査の内容]

調査はトレント法(2m×3m)で実施した。事業計画内の町道脇の畠地をその調査対象地とし、主に休耕地を選び、土地所有者との調整を行いつつ調査を実施した。10月16日より調査に着手し、平成12年度では23箇所の試掘・確認調査を実施し、今年度は16箇所の試掘・確認調査を実施した。層位は第2図のとおりだが、黒色土層、暗褐色土層が包含層であることが確認された。

小片が多く、時期の確認はできないが、平成12年度同様縄文・弥生・古墳時代のものと思われ、周知の遺跡としている当遺跡(S7・S8)はその範囲を拡大訂正する必要があるであろう。

表 土
黒 色 土
暗褐 色 土
黑褐 色 土
御池輕石層

第2図 基本土層柱状図



S07：外戸口遺跡群 S08：中原遺跡群 S09：下戸口遺跡群 S10：上戸口遺跡群 S17：西原遺跡 S18：岡下遺跡
S19：岡之元遺跡 S23：高畠遺跡 S24：和田遺跡 S25：中村遺跡 S26：山内遺跡 S27：山下遺跡

第3図 周辺遺跡位置図 (1:25,000)



トレンチ 24



トレンチ 25



トレンチ 26



トレンチ 26 西壁土層断図



トレンチ 27



トレンチ 28

図版1 宮ノ原地区調査状況—1



トレンチ 29



トレンチ 30



トレンチ 31



トレンチ 32



トレンチ 33



トレンチ 34

図版2 宮ノ原地区調査状況—2



トレンチ 35



トレンチ 36



トレンチ 37



トレンチ 38



トレンチ 39



中原遺跡群遠景

図版3 宮ノ原地区調査状況—3

2. 中原地区の試掘調査

【遺跡の位置と環境】

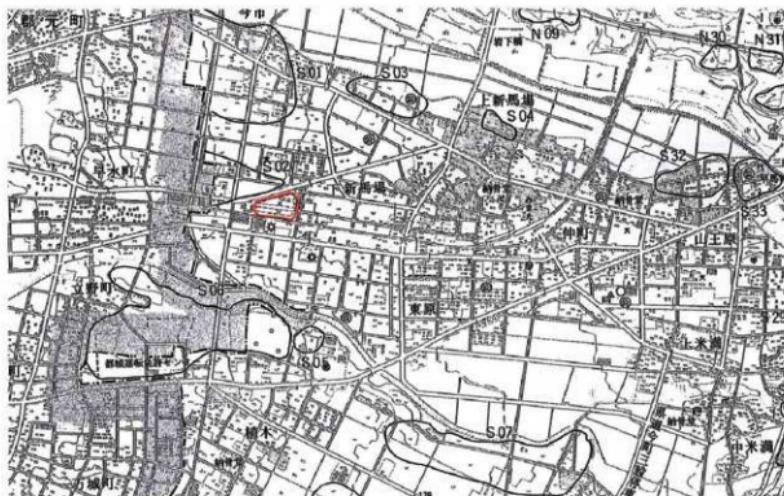
当地は、三股町の西部に位置し、都城市境に近く、『三股町遺跡詳細分布調査報告書』（平成8年度発行）によれば、北西部には中世の遺構・遺物を包蔵する花見原第2遺跡が隣接している。

【調査に至る経緯】

今回の調査は、自動車学校跡地である当地を宅地分譲することに起因している。31,467m²という大規模事業であり、町部局との協議においても埋蔵文化財の確認の必要性を説明し、土地所有者、事業者の協力を得、試掘調査を行った。自動車学校跡地ということもあり未舗装部分を試掘対象とする制約された調査となった。調査では、2m×3mのトレンチを5箇所設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

【調査の内容】

今回の調査の結果、5箇所のトレンチのいずれからも遺構・遺物は検出されなかった。地元の方の話では、自動車学校の前は畑地であったらしく土層観察でも一部攢乱がみられ、さらに自動車学校建設に伴い造成が行われたようである。



S01：花見原第1遺跡 S02：花見原第2遺跡 S03：上沖遺跡 S04：天神遺跡 S05：古堀第1遺跡
S06：古堀第2遺跡 S07：外戸口遺跡群 N09：諏訪原第1遺跡 N30：高才遺跡 N31：丸岡遺跡
S32：松原第1遺跡 S33：松原第2遺跡

第4図 周辺遺跡位置図 (1:25,000)



トレンチ 1



トレンチ 2



トレンチ 3



トレンチ 4



トレンチ 5



作業風景

図版4 中原地区調査状況

3. 御崎原第2遺跡の確認調査

[遺跡の位置と環境]

当地は三股町の東部で、沖水川とその支流の内之木場川に挟まれた丘陵上に位置する。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』(平成8年度発行)によれば縄文時代の遺構・遺物を包蔵する御崎原第2遺跡に当たる。当地を含む長田地区では、『三股町史』にも長原の丘などが紹介されているように縄文時代の遺構・遺物が顕著な地区である。

[調査に至る経緯]

今回の調査は、ジェイフォン西日本株式会社による携帯自動車電話無線基地局建設に起因している。調査対象面積は25m²という狭小な範囲での確認調査となった。3m×3m規模のトレンチを1箇所設定し、遺構・遺物の確認に努めた。

[調査の内容]

今回の調査の結果、トレンチからは遺構・遺物は検出されなかった。平成11年度には当地の南側に、NTTドコモの携帯電話の無線基地局の建設に伴う確認調査を実施しているが、そこでは1m近い造成が成されていた。今回の調査では、20cmの掘削でアカホヤ層が検出されており、当地一帯で土壌の切盛りが成された様子が窺われる。



N49: 小川内遺跡 N50: 御崎原第1遺跡 N51: 御崎原第2遺跡 N52: 走持遺跡 N53: 平山遺跡 N54: 長原遺跡

第5図 周辺遺跡位置図 (1:25,000)



トレンチ (東から撮影)



作業風景

4. 天神原遺跡の確認調査

【遺跡の位置と環境】

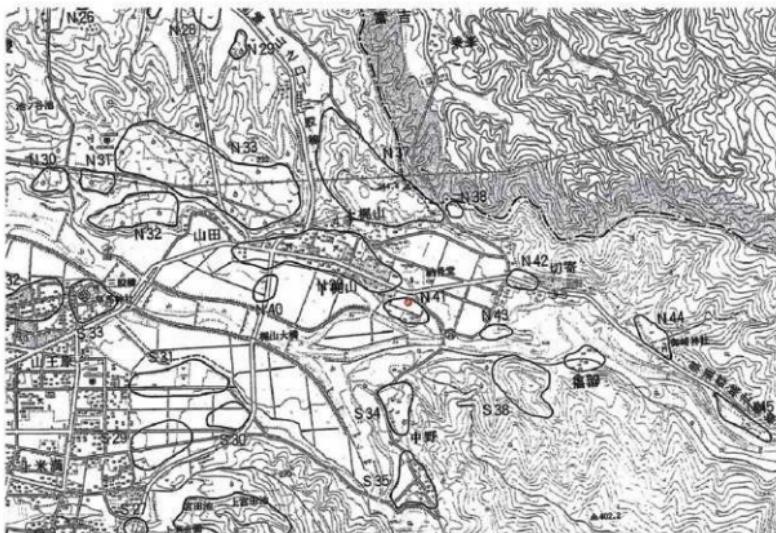
その調査対象地は、三股町大字長田字天神原3001番地1（他8筆）に所在し、「三股町遺跡詳細分布調査報告書」（平成8年度発行）によれば、時期は不明であるものの包蔵地として周知の遺跡となっている。その南部には沖水川が流れ、北部には中世山城の梶山城が確認されている。

【調査に至る経緯】

今回の調査は、平成13年11月上旬に三股町より当地での宅地分譲に伴う文化財の有無、取扱についての照会があった。生涯学習課では、周知の包蔵地であることと遺跡の時期の確認を含め、調査を行った。調査は、約5,062m²の対象地に、2m×3m規模のトレンチを5箇所設定した。

【調査の内容】

今回の調査の結果、トレンチからは造構・遺物は検出されなかった。当地は地元の方の話では、耕地整理が行われた過去があり、土層観察でもかなりの攪乱がみられた。



N29：千才丸遺跡 N30：高才遺跡 N31：丸岡遺跡 N32：宮ノ尾遺跡 N33：霧島侍遺跡群
N34：城内遺跡（梶山城） N35：坂ノ下遺跡 N36：中原遺跡 N40：上山田遺跡 N41：天神原遺跡
N42：辻原第1遺跡 N43：辻原第2遺跡 N44：牧遺跡 S34：杉木水流遺跡 S35：栗山遺跡

第6図 周辺遺跡位置図（1:25,000）



トレンチ 1



トレンチ 2



トレンチ 3



トレンチ 4



トレンチ 5



遺跡遠景

図版5 天神原遺跡調査状況

5. 五本松地区の試掘調査

[遺跡の位置と環境]

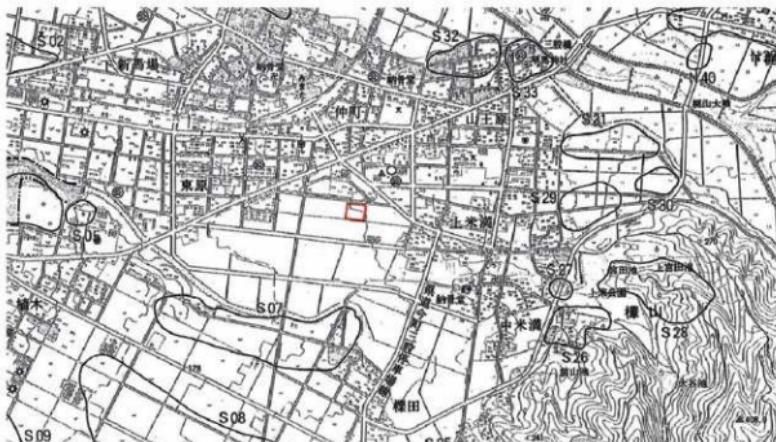
今回、文化財の有無について照会のあった温泉・福祉センターの建設予定地は大字樟山字五本松3364番地1（他16筆）に位置している。東側には三股町総合文化施設が隣接し、南東にやや離れて三股町役場が所在している。

[調査に至る経緯]

今回の調査は、位置と環境でも触れたように温泉・福祉センター建設に起因している。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』（平成8年度発行）では、この五本松地区を含めた周辺は、周知の遺跡については空白であり、今後予想される周辺開発に対応するためにも試掘調査を行った。調査は、12,024m²の対象地に、2m×3mを標準として11箇所のトレンチを設定した。

[調査の内容]

今回の調査の結果、トレントからは造構・遺物は検出されなかった。今回の調査結果は、当地の南側広場で毎年開催されているふるさとまつりの駐車場として整備されていること（現状は砂利敷き）、それ以前は畠地として利用されていたことによるものと考えられる。



S02：花見原第2遺跡 S05：古堀第1遺跡 S07：外戸口遺跡群 S08：中原遺跡群 S26：山内遺跡
S27：山下遺跡 S28：宮田遺跡 S29：後畠遺跡 S30：射場追遺跡 S31：町前遺跡
S32：松原第1遺跡 S33：松原第2遺跡 N40：上山田遺跡

第7図 周辺遺跡位置図 (1:25,000)



トレンチ 1



トレンチ 2



トレンチ 3



トレンチ 4



トレンチ 5



トレンチ 6

図版 6 五本松地区調査状況—1



トレンチ 7



トレンチ 8



トレンチ 9



トレンチ 10



トレンチ 11



作業風景

図版7 五本松地区調査状況—2

報告書抄録

フリガナ	ミマタチョウナイイセキ				
書名	三股町内遺跡Ⅱ				
シリーズ名	三股町文化財調査報告書				
シリーズ番号	第4集				
編集者名	黒木欣綱				
発行機関	宮崎県三股町教育委員会				
所在地	宮崎県北諸県郡三股町五本松1-1				
発行年月日	2002年3月31日				

所収遺跡名	所 在 地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
外戸口遺跡群	三股町大字樺山字外戸口、山水、八谷、向原			2001.10.16 ～ 2002.3.31	40m ²	県営畠地帶 総合整備事業
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	弥生・古墳時代	柱穴・土坑	土器			
所収遺跡名	所 在 地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中原遺跡群	三股町大字宮村字中原、北原、西原			2001.10.16 ～ 2002.3.31	50m ²	県営畠地帶 総合整備事業
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	縄文・古墳時代	柱穴・土坑	土器			
所収遺跡名	所 在 地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中原地区	三股町大字樺山字中原			2001.6.1	30m ²	宅地分譲
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
		なし	なし			
所収遺跡名	所 在 地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
御崎原第2遺跡	三股町大字長田字御崎原			2001.6.12	10m ²	携帯自動車電話 無線基地局建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
		なし	なし			
所収遺跡名	所 在 地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
天神原遺跡	三股町大字長田字天神原			2001.11.7	30m ²	宅地分譲
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
		なし	なし			
所収遺跡名	所 在 地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
五本松地区	三股町大字樺山字五本松			2002.2.6 ～ 2002.2.14	70m ²	温泉・福祉 センター建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
		なし	なし			

三股町文化財調査報告書 第4集
三股町内遺跡Ⅱ

2002年3月

発行 宮崎県三股町教育委員会
〒889-1995
宮崎県北諸県郡三股町五本松1-1
TEL 0986-52-1111

印刷 株式会社 文昌堂
〒885-0052
宮崎県都城市東町18街区1号
TEL 0986-22-1121